

怪異名：

魔女裁判

属性：

影響

破滅者／元凶：

様々



怪異レベル

存在点

初期値

現在値

基本攻撃

【精神】

▼ 原型

▼ 穢れ

| | 名称 | タイミング | 対象 | 回避／禁則 |
|-----|--------|-------|----|---|
| 嘘／疑 | 膨張する猜疑 | 先制 | 全員 | 【頭脳】 【肉体】、目標値上昇、確保 (『トコヤミメイズ』 136 ページ) |
| 街 | 嘲笑の目 | 常時 | 全員 | なし — (『トコヤミメイズ』 131 ページ) |
| | 鉄槌 | 後勢 | 全員 | 【肉体】 代替、援護、目標値上昇 (『トコヤミメイズ』 150 ページ) |
| | | | | |
| | | | | |

設定：

この怪異の本質は、集団によって引き起こされ、共有された「妄想」という点にある。社会でのイメージに従い、多くの怪異が「悪魔」の形をとっていた時代、破滅者である「魔女」は今よりも遥かに「身近」な恐怖であった。しかし皮肉なことに、魔女への恐れ・偏執病的な排除意識が「魔女裁判」という怪異を形作ってしまったのだ。「魔女裁判」は宣言された時点で人々の心を侵蝕し始め、周囲は被告が魔女であることを一切疑わなくなる。怪異の影響を逃れた人間が真っ向から正しさを謳おうと、一切の勝ち目はない。

この怪異の恐ろしさは、被告となった人間に心の闇を植え付け、豊かで幸せに生きてきた人間をも本当に破滅者にしてしまうこと。そして——形を変え、方式を変え、棲み処を変え、今も社会に虎視眈々と息づいていることである。